

## 令和元年度第2回高島市総合教育会議 会議録

日時 令和2年2月3日(月)  
開会 午後1時30分  
閉会 午後3時08分  
場所 高島市役所 新館3階 会議室11・12  
出席者 市長 福井 正明  
教育長職務代理者  
小多 偕裕  
教育委員 三矢 艶子  
川原林 正英  
田邊 栄美子  
教育長 上原 重治

### 事務局

#### (市長部局)

総務部長	岩松 充司	政策部次長	前川 一善
市民生活部長	西川 彰	子ども未来部長	清水 真理子
健康福祉部長	藤原 秀夫	社会福祉課長	加藤 勝己

#### (教育委員会事務局)

教育総務部長	北村 英明	教育指導部長	川島 浩之
教育総務部次長	川原林 剛	教育総務部次長	山本 純子
教育総務課長	大塚 寿彦	文化財課長	松田 邦幸
市民スポーツ課長	角野 和善	図書館長	玉木 健史
学校教育課長	村田 秀俊	学事施設課長	辻 信孝
学校給食課長	長瀬 千恵美		
社会教育課地域教育連携室長	小川 祥枝		
教育総務課参事	上原 真哉	教育総務課主査	岡本 健太郎

関係者 地域学校協働活動推進員 5名

傍聴人 6名

<p>大塚教育総務課長</p>	<p>皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから、令和元年度第2回高島市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>開会にあたりまして、福井市長からご挨拶を申し上げます。</p>
<p>福井市長</p>	<p>改めまして皆さん、こんにちは。それでは本年度第2回目の高島市総合教育会議の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>教育委員の皆様におかれましては、日頃から高島市の学校教育はもとよりであります。社会教育等々広範な分野におけます教育行政に関しまして、高島市の教育行政の進行にご尽力あるいはお力添えを賜っておりますことに対しまして、改めてこの場をお借りして、心から御礼を申し上げる次第でございます。</p> <p>さて、今日の第2回の総合教育会議のテーマは「地域学校協働活動の今後の方向性について」ということとございまして、いささかタイトルとしては非常に大きなタイトルになってございまして、どのように進行させていただくか少々不安ではございますけれども、そのために今日は各地域の地域学校協働活動の推進員の皆様にもご出席をいただいております。後ほどそれぞれの地域の実情等についてお話をいただくこととさせていただきます。もとより推進員の皆様におかれましては、日頃から地域と学校をつないでいただく大変難しいテーマでありますけれども、そういう役割、そしてそれぞれの学校の子どもたちの育みでありますとか、あるいは学校運営にもお力添えを賜っておりますことに対しまして、改めてこの場をお借りして、心から御礼を申し上げる次第でございます。本当にありがとうございます。</p>

<p>福井市長</p>	<p>本年度のいろんな取組を聞かさせていただきますと、昨年８月でしたか。広島県の方で学校のコミュニティ・スクールの取組の全国大会が開催されて、高島市からは湖西中学校のコミュニティの取組の発表をしていただいたり、そしてその後の１０月に神戸の方で開催の全国社会教育大会がございまして、その際にも高島学園の地域学校協働活動の取組を発表していただいたという報告を受けてございます。本当に高島市のこの活動そのものが全国的にも先進的な取組を縷々行っていたいているところではありますし、そうした高島市の取組を今年の１月でしたか、鳥取県の米子市の方から視察なりあるいは交流の申し出があったということで有意義な交流をしていただいたということも報告として聞かせていただいております。今日のテーマが今後の方向性についてということでございますけれども、私のところの報告内容を聞かせてもらっておりますと、県内はもとより全国的にも先進的な取組をしていただいていることと存じているところでもございますし、ただそれぞれご苦労いただいているいろんな課題もあろうかと思っておりますので、今日はそのあたりもお聞かせいただければなというふうに考えてございます。</p> <p>結びになりますけれども、教育委員の皆様、そして今日ご出席いただいております推進員の皆様には、繰り返しになりますが、いろんな活動を通じまして、高島市の教育行政の推進にお力添えをいただいておりますことに改めて感謝を申し上げまして私からの挨拶とさせていただきます。短い時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>大塚教育総務課長</p>	<p>本日の総合教育会議の出席者につきましては、福井市長、教育委員の皆様、上原教育長のほか、お手元に</p>

<p>大塚教育総務課長</p>	<p>配布しております座席表のとおりでございますのでご確認をお願いします。皆さんよろしくお願いたします。それではここからは市長の進行により、会議の方を進めていただきます。福井市長、よろしくお願いたします。</p>
<p>福井市長</p>	<p>それでは、次第にもとづきまして、進行をさせていただきます。先ほど申し上げましたように、今日のテーマは、「地域学校協働活動の今後の方向性について」であります。この地域学校協働活動を総合教育会議で取り上げるのは今回で3回目となります。第1回目では、高島学園の事例を本日もお越しいただいております中村推進員さんにお話しいただき、どのような学校と地域を作っていきたいのかという思いを共有させていただいたところでもあります。</p> <p>また第2回目では、「つながり響き合う教育」をテーマに、地域学校協働活動の本格実施1年目を振り返りまして、見えてきた成果や課題について意見交換もさせていただいたところでもあります。各地域で課題はありますものの、推進員さん等々の大変なご苦勞にもよりまして、地域の方々のご理解、ご協力を得て、少しずつ着実に進んでいると感じているところでもあります。</p> <p>そして今日は、そういう活動の中で推進員の皆様が、日頃感じていただいております成果でありますとか、あるいは変化、さらには先ほど挨拶にもありましたように、ご苦勞いただいている部分があるかと思えますし、そういう課題などについてお話をいただいて、委員の皆様と今後の地域学校協働活動の方向性について、意見交換をさせていただければと考えておりますのでどうぞよろしくお願いたします。</p>

福井市長	<p>それでは、協議事項につきまして事務局から説明をお願いします。</p>
社会教育課地域教育連携室 小川室長	<p>失礼します。社会教育課地域教育連携室の小川でございます。今日はどうぞよろしく願いいたします。それでは各地域の取組、成果や課題について推進員の方から順次報告いたします。はじめにマキノ地域の谷口推進員からお願いいたします。</p>
谷口推進員	<p>皆さん、こんにちは。失礼します。谷口です。私の方からはマキノ地域での活動の紹介をさせていただきます。前に写真とお手元の方に資料が参っているかと思しますので、ご確認いただくとありがたいです。私はマキノの担当ということですが、実際の活動は一昨年9月から学校の方に入らせていただいたところでございます。私はマキノから大津の方へ通っておりますので、地域と普段から連携しているかというとなかなか不十分な部分もございましたし、学校現場となりますと特にそういう経験はございませんでしたので、最初は学校に入ってもいい時間は何時頃なのかとかですね、気軽に校長先生に声をかけていいものかとかいうふうに考えていたところですが、そう言ってもしょうがないので、私が今までやっていた自然体験活動ですとかね、県庁での仕事の関わりとかを活かしてやらしていただきました。実際に学校へ入らせていただきますと、開かれた学校ということで学校に地域の人に来てほしいとはいうものの、なかなか学校でいろんな素晴らしい行事はあっても、それがうまく情報発信できていないなということを実感しました。そういう部分では情報発信していただくツールに何がよいか、もちろん学校だよりとかもそうですけど</p>

も、地域のボランティアの人に得意なパソコン関係でホームページを作ってもらうことにしました。そうすることで、情報の提供、そしてボランティアの呼びかけでありますとか、当日の行事に参加されなかった場合に後で見てもらえとかということになりますので、そういうことをひとつさせていただきました。あと今、前に映っている写真でございますけれども、マキノという一番大きな小学校が70～80人前後、中学校でも130人程度ですので、小さな学校ですけども、できたら「こんな特徴があるんや」、「子どもたちもこんなことしてるんやで」みたいな自慢できることがあればなということで、私が以前やっていた仕事の関係で、これは湖南省の子どもたちです。湖南省の子どもたちにマキノ東小学校に来ていただいて、交流していただいて、去年は台湾の子どもたちにマキノ中学校に来ていただいて交流をしていただいたんですけども、そういう多文化でありますとか、他の文化を学んでもらうみたいなことをさせていただいたところでございます。

あと、実施にあたってですけども、なかなか地域の方を存じ上げないということもありますので、地域にありますような青少年学区民会議でありますとかいろんな福祉のネットワークでありますとかいうところに私もできるだけ参加させていただきまして、地域におられる人材とつなぐという形のことをさせていただいたり、学校に入らせていただいて学校の先生もなかなか地域の方をご存知じゃないので、私が知っているだけの情報を提供させてもらって地域を理解してもらうみたいなことをやらせていただいているところです。

事業の成果としましては、子どもたちは今回のよう

に地域だけではなくってそれ以外の方とつながる、あるいはこの方（スクリーンに写真を表示）はマキノに住んでおられる中国の方ですけども、通訳をしていただくということで、初めて学校と関わりができましたので、その後中国の暮らしとか文化を授業で説明をしていただいたところですけども、そういう部分では子どもたちのいろんな理解が広がったのかなと思っておりますし、学校も地域の方との広がりとか、地域への理解が進んだのかなというふうに思っております。地域の方につきましても得意分野を活かす、社会参加の機会が出てくるとかということにもなりますので、そういう部分でいろんな広がりがあったのかなというふうに思っております。

あと、これから進めていくにあたっては学校、教育委員会、それ以外の行政、そして地域の連携というのは十分じゃないとなかなか進まないと思っております。協働という部分では、地域というのは、私ども地域の福祉、環境、まちづくり、いろんなネットワークがありますけどもそれに出てくる人というのは同じ顔がほとんど多いんですね。そういう部分では、やっぱり行政の縦割りでできているけども、行政の方も地域の参加している人はいろんな情報を知っているんやという行政の内部での横の連携も深めていただくと、もう少し理解が深まったりするのかなというふうに思っています。

あと、学校協働活動と学校運営協議会、CSの連携のことをよく言われますけども、そういう部分では協働につきましても、学校運営、カリキュラムを作るところから地域、多様な方との協働という部分で作り上げてこられると後のフォローがうまくいくかなというふうに思いますので、そういう部分が今後うまく図れ

谷口推進員

社会教育課地域教育  
連携室 小川室長

て行けたらいいのかなというふうに思います。以上です。

ありがとうございました。次に今津地域協働活動推進員の福田龍己さんが本日欠席のため、事務局の方から今津地域の活動報告をさせていただきます。

今津地域の特徴は、高島市でこの地域学校協働活動の取組が始まる平成30年度以前から学校を支援しようと学校応援団やサポーター会など地域の方によるボランティア組織ができているということです。写真の今津東小学校の学校応援団はなまる広場では、毎週月曜日休み時間を利用した学習や遊びの支援、学校や地域行事の支援、環境整備なども行っておられ、日常的に地域の方が学校で活動されておられる姿が見られます。これら既存の学校支援活動と連携しながら、さらに地域と学校が協働した活動ができるよう関係づくりを今進めています。また今年度、福田推進員から地域団体に活動の趣旨などを紹介してもらったおかげで、地域から中学校とつながりたいという声上がり、地域の環境活動や保育園の交流活動にも中学生がボランティアとして参加してくれました。これらの活動は大きなイベントではありませんが、小さな取組から子どもを中心に地域・学校・家庭のつながりが自然に生まれ、それを重ねていくことで、地域やそこで育つ子どもたちを大切にしていこうという意識の向上につながるものだと考えています。今後は学校ごとに活動しているボランティアの代表や自治会、福祉関係者など多様な地域の方の関わりによってオール今津での協働本部組織となるよう体制を整え、持続可能な活動にしていきたいと考えております。以上で今津地域の報告を終わります。

<p>社会教育課地域教育 連携室 小川室長</p> <p>駒井推進員</p>	<p>続きまして、朽木地域の駒井推進員、お願いいたします。</p> <p>失礼します。朽木地域学校協働活動推進員をさせてもらっています駒井佐和子です。よろしく申し上げます。</p> <p>朽木の弱みを強みに変えられたらというような思いで推進員をしています。朽木の弱み・課題と言えば人口の減少です。朽木村の時にあった歌なんですけど、 「<sup>こすう</sup>戸数は<sup>はっぴやく</sup>八百、<sup>ひとしせん</sup>人四千」という歌があります。戸数は八百というのは800軒、人四千というのは人口4,000人ということです。昭和時代はそういうたくさんの方が住んでいた朽木です。しかし、令和2年1月現在では、戸数は760、人口は1,685ということで、戸数はほとんど変わっていないのですが、人口は半数よりも少なくなっています。当然子どもたちも減っていついていまして、東小学校が59人、西小学校が4人、中学校が31人、3校合わせて94人です。本当に少ない小中学校の子どもたちなんですけど、6月に小中合同のスポーツデーがありました。東小学校・中学校が中心なんですけど、西小の子も入学前児の園児も一緒になって元気に楽しく活動してくれました。ところが、会場の朽木中学校のグラウンドといえはとても広いです。草も元気にのびのびと生えています。そんな現状を見た地域の方が「ほっとけんな」「これはあかんな、草取りしたるか」と何人もの人が1週間ほど草取りや草刈りをしてくださいました。そのおかげですっきり気持ちいいグラウンドでスポーツデーを迎えることができました。とてもありがたかったです。またスポーツデーの本番には朽木音頭保存会の踊り手とか音頭を生でということで音頭取り、三味線、太</p>
--------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

鼓、合いの手と地域のおっさんの会という方々が来てくださいました。そして、日赤奉仕団による豚汁や朽木支所の方のテントの設営・片付けなどたくさんの方の協力のもと、子どもたちは力いっぱい演技することができました。また、その姿を見て地域の人もおっ、みんな元気にやっているな」と元気をもらいました。また、環境整備については、学校だけではとても難しいという大きな課題もありますので、例えば花の種まきや仮植、花壇やプランターへの植え付けなどは中学生と地域の方が一緒になって行っています。こういうふうに学校や地域の課題が地域との連携につながっているということを実感しています。また、朽木の文化祭では今年度初めて地域の方はもちろん東小学校全員の音楽発表、西小の太鼓、中学校の朽木太鼓と、中学校区全部の小中学生が参加できました。保護者、地域の方などたくさんの方に見てもらえてやまびこ館のホールは立ち見が出るほどたくさんの人でした。「可愛かったな」「太鼓すごいな」「少ない人数でよく声出ていたな」「朽木太鼓、昔思い出すわ」とかたくさん感想をいただきました。たくさん感動をありがとうございました。今年新しいイベントになりました。今年新しい取組としましては、朽木地域学校協働本部「結ゆいの会」という名前にしたんですが、その連絡メールの登録を進めて、学校からの案内やボランティアのお願いなどメールによって配信しています。登録は15団体、ただいま45人、いろんな学校の活動を知ってもらったり、学校へ来てもらったりということにつながっています。また、民生児童委員さんにも学校に関わっていただいて、「高齢者も大事やけど、子ども大事にせなあかん。子どもが一番やな」というような声もいただきました。また、結の会のお便りは朽木地区全区で



校でうまくいくところといかないところがいろいろあります。私が現場にいた時よりは、少しは風が通ったかなと思っています。

その中で昨年から今年にかけて頑張ってきたことを紹介させてもらいます。今（スクリーンに）映っていますのはあど川ボランティアまつりと言いまして、これは社会福祉協議会安曇川住民福祉ネットワークが主に中心になってやっているんですけども、その会場を安曇川中学校でさせていただきました。安曇川中学校でさせていただくことによって、オープニングのブラズバンドからそれを移動させなくてもいいというところからスタートして、この写真は最後の場面なんですけども、バレー部と野球部の生徒たちが最後の歌を歌いましょうという場面で前に出て一緒に歌を歌ってくれています。ピアノは隠れていますけれども生徒が演奏してくれています。右の方の2人は司会進行で全て中学生がしてくれました。終わりの方でしたので帰った人もいますですけど、この歌を歌いますよと言うと、部活の子どもたちが練習をしていてくれて、ピアノの子も練習をしてくれていたようで会場一体で合唱となりました。ピアノの子の隣に住んでいる人から「このどんぐりの歌が毎日流れて聞いてたんよ」というような話も聞いて中学生たちもそれなりに熱心に取り組んでくれたのかなと喜びました。この他に受付、それから会場係、レクリエーションもあったので仕掛けてくれる人、この日子ども食堂も中学校で一緒にしました。その時の子ども食堂のスタッフ、その他前日準備から当日運営ありとあらゆるところに中学生が総勢100人くらい関わってくれました。中学生がいなかったらとてもできなかつたなっていうのが、ボランティアまつりの後の声でありました。それと、中学生

の子どもを持っていない年配の人が「中学生ってこんなに可愛かったんやな」「中学生ってこんなに喋りやすかったんやな」っていうようなそういう印象を持ってもらえたことがとても良くて、並行して安中カフェというのもやっているんですけども、それとネットワークも中学校の空き教室を利用させてもらってほぼ毎週木曜日には誰かがそこに来ています。中学生が気楽に声をかけに来てくれたり、そういう地域の方と中学生との交流がこれで深まったかなという感じはしました。これが続いていくように今年も時間もなくお願いだけで、先生との打ち合わせだけで終わってしまったんですけども、来年度は中学生の意見として「僕たちはこういうことしたいんや」とか聞きながら、進められると一歩一歩進んでいけるかなと思っています。このあと川ボランティアまつりについては、年間行事に入れてもらえるかなっていうぐらい中学校の先生と話をしています。

2つ目は伝承料理なんですけども、この方は80歳近い方なんですけども、ずっとこの伝承料理クラブっていうものを高島市になった時に女性の会っていうのができて、それが今伝承料理っていうことになっているんですけども、一時「中学校へは高齢者になったから行けへんわ」ということになったらしいです。そこで地域協働活動が入らせていただいて、この伝承料理をもう一度お願いしますということでやりだしてメンバーが増えて27名になってこの人も「車に乗れへんようになるまで行くわ」と言って、3日間あるんですけども、3日間とも来てくださってこうして中学生にいろんなことを教えてくださっています。私はこういう、協働活動が入ったことによって伝承クラブが復活して、またこの方たちが生きがいを持って、子どもたち

にやっぱりこういうことを知ってほしいなという思いを持って学校に出入りしてくださったことは良かったなと思います。私もこの方に鮎の炊き方を教えてもらって上手に炊けるようになりました。「みりんを入れてないのになんでこんなに光っているん？」というところから教えてもらいました。やっぱり琵琶湖に住む魚の伝承料理を子どもたちに知ってもらえたらなという思いで頑張ってくださいています。料理教室自体も復活して年間で活動しておられます。

あともう一つは先ほども踊りの話がありましたけど、高島音頭を本庄小学校の運動会に復活してもらいました。地元「すわどさん」というお祭りがあって、以前は三晩も四晩も踊り通したという話も聞いていたので、南船木にそういう保存会というか普及しようとしている方もおられるので、学校に来て練習もしてもらって生の音頭と生の太鼓で運動会にやったら誰が一番喜んだかというとおじいちゃん、おばあちゃんでした。そしてお父さんたちも自分が子どものときに踊っていたから、かけ声なんかもとてもすごく、そういう昔のことを思い出しながら子どもたちに伝えていけたらなとこういうことも続けていけたらと思っています。

一番初め、私はこの仕事を引き受けた時にやっぱり環境問題が気になりました。学校もなかなか忙しくて除草とかに手が回らない時代になってきたなと思ったので、どの学校も除草については地域の方に来ていただいたり、ボランティアグループの人にお手伝いしてもらって本庄小学校やらそれぞれの学校でやっていますが、これも祖父母の皆さんに呼びかけるんですけども、学校によってはなかなか祖父母まで手紙を出すんですけど、PTA総会でも言うんですけど、なかなか

かつながらないところもあります。学校規模、学校のいろいろなことによってなかなか難しいなと思うところもありますけれども、一部の方は頑張ってくださいっていて、どの学校も花壇はきれいになっていますし、今までですと花壇の苗はどうしようとなっていました。が、苗とかそういうものももらって「こんなんあったしもうてきたわ」という感じで、それぞれでまた持ってきてくださったりして皆さんで環境を整えてくださっています。私はこの環境を我が学校のようにして「ちょっと気になるし勝手に行ってくるわ」というような地域になったらいいなというのが理想でして、このへんに力を入れて我が学校になって環境は地域の人できれいにしていくというようなことでいいかなと思います。

私個人で悩んでいることというのは、やっぱり学校が4つありまして、1人でこっちのこと一生懸命思っているところのことちょっと忘れていたり、情報発信もしたいなと思うんですけども、事後処理というのがなかなかできないんです。駒井さんみたいに情報発信していくと、地域の人に知ってもらってとか。私はそのへんが今日はこれひとつ終わったし、また次はこれという感じで。そのあたり推進員と言いますかもう少し複数でいられる体制を作れたら。自分で気になる人や来てもらいたいなっていう人には声をかけてみて、もう一度仕切り直しと思って事務職員さんとの連携とかもう一度校長先生たちとの一からの話し合いとか地域のちょっとこっちを向いてくれるお母さんとかに声をかけながら組織作りを一から来年度はやっていきたいなと思っています。以上です。

<p>社会教育課地域教育 連携室 小川室長</p>	<p>ありがとうございました。続いて、高島地域の中村推進員お願いいたします。</p>
<p>中村推進員</p>	<p>皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました高島学園担当の中村真奈美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>高島学園では平成29年度より市内に先駆けて活動をスタートしました。小中一貫校の特色と高島の地域性を活かした取組で地域と学校をつなぎ響き合うことのできる協働活動を目指して行ってきました。それからめでたく3年経過しました。そんな中、本日は地域と学校が協働した主な活動について報告させていただきたいと思います。</p> <p>まず、「地域から学校へ」の活動から。1つ目は学校のお昼休みを利用して行いました道場シリーズです。算数の九九道場やわり算道場、また冬場に行く昔の遊び道場、これらも3年目となります。写真はその時の様子で、九九道場の時に普段は年配の方が多いですけれども、写真のように保護者の方もボランティアとして関わって活動していただいています。このようにどれも児童やボランティアにとってしっかりと定着した活動となりました。昼休みの短い時間ではありますが、教室内はとてにぎやかで交流が深まったことは言うまでもありませんが、学習意欲が向上するという成果も出てきたかなと思います。また中学生の参加も年を重ねるごとに増加して学園全体の取組となってきました。</p> <p>次に2つ目は「授業へのかかわり」についてです。小学校ではこれまでの家庭科ミシンサポート、町たんけんなどで地域学習の案内などに加えて新たな取組として月1回の委員会活動に地域のボランティアが加わ</p>

ったことです。特に図書ボランティアと図書委員が協力してイベントを開催したことはとても効果のある取組かと思えます。小学校だけではなく、中学校では毎年開催の郷土料理学習や全校自然体験学習に多くのボランティアの参加で無事達成できることができました。

そして3つ目は、「学校から地域への活動」です。中学生が高島の伝統行事「大溝祭り」に曳き手として参加し、郷土の歴史やまちおこしについて生で学ぶことができました。また地域開催の「たかしま夏まつり」にスタッフとして参加するなど年を重ねるごとに地域行事にはなくてはならない存在となりました。また、自治会主催のふれあいサロンに吹奏楽部が2年続けて参加したこと、ちなみに「来年もぜひ」という感想をいただいています。そして新たな活動として、学校近くの福祉施設に春と冬、各1週間かけて訪問し、高齢者の皆さんと交流を深めるなど福祉活動にも貢献できたかと思えます。

このように主な取組を報告させていただきましたが、活動の成果としてまず児童生徒にとっては地域ボランティアの皆さんの顔と名前が覚えることができ、コミュニケーションがアップしたことです。生徒会ではボランティア活動を重視するなど地域に対する関心が深まりました。そのボランティアさんからは「自分の力を発揮することができ、生きがいや楽しみを見つけられることができた」という感想をお聞きしています。また地域にとっては協働活動が推進されることで参加ボランティアも増え、学校に対する理解も深まってきました。そして、学校にとっては授業等への支援で先生方の不安が少しでも軽減されたかなということ、学校行事への参加者が増えることで、新しい行事

<p>中村推進員</p>	<p>も学校で計画できるようになったことなど成果としてあげることができるかなというふうに思います。</p> <p>このような協働活動を進めていくために学園内担当者や参加ボランティアと十分に熟議すること、また今まで関わりの大きい公民館や各種団体、例えば学区民会議や民生委員児童委員、そして教育委員さん、今日お越しの社会教育委員さんなど機関、自治体に加えて今年は企業からも参加があり、今後も多くの市民に関わってもらえるよう努力していきたいと思います。このように協働活動がより良い形となり、活動が深まることで学校と地域が活性化しそのことがまちづくりに大きくつながればいいなと思います。これからも地域の皆さんとともにより一層努力していきたいなと思います。以上です。</p>
<p>社会教育課地域教育 連携室 小川室長</p>	<p>ありがとうございました。では最後に、新旭地域の三田村推進員の報告をお願いいたします。</p>
<p>三田村推進員</p>	<p>失礼します。新旭地域担当の三田村でございます。よろしく申し上げます。</p> <p>最初に新旭で取り組んでいる基本的な考え方が3つあります。1つは、最近中学生に説明する機会があってその頃から言っているんですが、「四方よし」ということでこの活動の狙いを言っています。いわゆる近江商人の三方よしのことなんですが、子どもにとってよい、先生方にとってもよい、そしてボランティアをしている方にとってもよいし、最後地域にとってもよくなる、そういう狙いでこの活動をしてるんやということで、中学生にもまた先生方にも、支援の会の方にも呼びかけをしています。そして2つ目なんですが、地域と学校、あるいは地域保護者と学校、学校との信</p>

頼関係を深めていきたいなという思いがあります。学校というのは、批判とか冷めた目で見るとはなくて、支援していくものだ、応援していくものだ、みんな温かく見守って一緒に取り組んでいくものだという機運を醸成していきたいなということです。そういう関係を作っていくことが2つ目で、その機運を醸成することが3つ目なんです。1つ目が四方よし、そして信頼関係を作っていく、また支持的な機運を作っていく。そのために、とりあえず学校支援の活動から頑張っていていこうということで進めてまいりました。

具体的にはこのプリントの方にあります、まず1つ目は徹底した学校支援活動ということで、新旭北と南の両小学校に46名、ちょっと増えていますが、そういった会員の方がおられます。その会員を中心にして下校の見守り隊を結成したり、あるいは入学式の受付から校庭の草刈り・剪定、七夕集会の笹取りなどいろんな細かいことまで学校が要望してこられたらきちんと応えていこうということでボランティアの方が毎日出入りされているような状況になってきています。

2つ目なんですが、これはスライドにもありますが、去年までは挨拶運動ということだったんですが、今年から「<sup>がくじしじん</sup>学而事人おはようミーティング」というふうに名付けました。単に昇降口で子どもたちを迎えるというのではなくて、会員同士、また先生方と会員、先生方と子どもたちもそうですし、送ってこられる保護者とまた会員なり、いろんな形、いろんな人が交わって会話して新しい支援活動をこんなことをやっていこうかという発想もここで生まれてきています。例えば学而事人ファームもそうですし、藤樹ウォークで芋焼きで迎えようとかいろんなことがこの場で生まれて

きています。そういった意味でおはようミーティングというふうに名付けています。

そして、次3つ目なのですが、（スライド提示）これは「夏休み、宿題カフェ」ということで、公民館で今年開催したものです。もともと湖西中学校で湖西中カフェをしておられる社会福祉法人団体から夏休みにこういう公民館を使って中学生に夏休みの宿題を教えてもらおうというそういった企画なのですが、それを社会福祉法人団体の方から学校へ提案がありました。両小学校長、中学校長、社会福祉団体、また社会福祉協議会もそうですが、地域学校協働本部と一緒に企画して、最終的に申込の始まったその日に小学生は定員が満員になったということで、中学生の方もボランティアを募集したらもう2年生だけで15人集まったのでそれで開催したという形で、小学生を中学生が教えてそれをまたボランティアの人が見守っているという姿でございます。単に宿題、学力ということではなくて、子どものセーフティネットの関係で塾行けない子とか子ども食堂の学力版なのですが、こういったことがどんどん広がっていけばいいなということも思っております。

あとは、いろんな声としまして、報告書に事業の成果としまして、「学校からはほぼ100%応えていただけた」とか「教師の負担が減った」とか、あるいは「学校に入りやすくなった」また「中学校の先生からは生徒の聞く姿勢が良くなった」「明るい挨拶が増えた」「遅刻がほとんどなくなった」「学習への構えが良くなった」「保護者の苦情が減った」など学校が大きく変わったというような声を聞いています。保護者の方の2学期の学校評価のアンケートの中にあつたんですが、「地域の方の力を感じる1年でした。子ども

<p>三田村推進員</p>	<p>が何事にも熱心に取り組む姿は素晴らしい。数年前よりおっちゃん素晴らしい雰囲気です」というそういった嬉しい声も聞いております。</p> <p>ただこの支援の会もあるんですが、その持続可能な体制を続けていくということ、非常にこう難しいなと。リーダー発掘が大切だろうということ。また小中学生の地域活動というのがまだまだだなということ。そして地域総がかりと言うなら、保育園とか幼稚園、そしてまた学童保育所といったそういう所との連携・協働・支援なりを広げていく必要があるだろうということを感じています。最初に言いました四方よしの中で、子どもにとってよい、教職員にとってよいということは支援活動から一定少しは進んできたと思いますが、支援者にとってよい、あるいは地域にとってよいというところは、まだまだこれからだというふうに思っております。以上でございます。</p>
<p>社会教育課地域教育 連携室 小川室長</p>	<p>ありがとうございました。5名の推進員さん、報告をありがとうございました。次に学校や子どもたちの変化について、学校教育課 村田課長から報告をお願いします。</p>
<p>村田学校教育課長</p>	<p>失礼いたします。ただいま地域の推進員の方々からご説明いただきましたように地域学校協働本部による活動創出によって学校への関わり人口が増え、そのことで学校や子どもたちの様子が変わりつつあります。次に紹介いたします湖西中学校ですが、先ほど三田村推進員からもありましたが、その変化が特に大きな学校のひとつです。</p> <p>湖西中学校では地域の方々毎日校門近くで子どもたちを元気に迎えてくださっております。自然と子ども</p>

もたちも元気に挨拶が交わせるようになり、一日のスタートを元気に切れるようになりました。そのことが学校生活全般にもプラスで働くようになっております。

テスト前の放課後、学習相談ルームに質問に来る生徒がいます。その時は地元の教師OBの皆さんが駆けつけてくださり、子どもたちの学習をサポートしていただいております。学校農園の作業では、畝づくりから作付け、収穫にも力を貸していただきました。畝づくりの際には、ご自身のトラクターまで出してくださり、学校は大変助かりました。図書室のリニューアルによって、子どもたちが活用しやすい図書室へと変貌しております。文化祭前には、体育館ステージの中幕を修繕していただきました。このおかげで、ステージでの活動、例えば劇中の場面転換など、スマートに行うことができ、子どもたちの活動意欲が高まること、活動そのものの精度も高まることとなりました。

このような、直接的・間接的な関わりのおかげで、学校はここにいますような変化を感じております。学校生活全体に落ち着きができ、学習や部活動に活気が出てきております。また、挨拶が元気になって授業や集会の時の姿勢も大きく変わってきております。

これは、全校集会と朝読書の様子なのですが、集会では、子どもたちが顔を前に向けて、しっかり話を聞こうという雰囲気を感じられます。この姿からも子どもたちの、また学校の大きな変化を感じていただけるのではないかなというふうに思います。

学校への関わり人口の増加によって、学校が変わってきている一方で、子どもたちが学校外に出て地域で活動する場面がまだまだ少ないことが、昨年度の課題としてあげられていたんですが、今年度は中学校を中

心に、どんどん子どもたちを外に出して活動させることをとおして、地域とともにある学校づくりの取組が進められています。「子どもたちが、地域の方々とともに、真面目に活動し、地域の方々から頼られ、励まされ、そして、地域の方々から教わり、会話する」そのような活動によって、地域の方々と顔見知りになり、出会った時に挨拶が交わせ、また会話ができるようになる。そのような子どもたちの変化、成長が大人や地域の元気につながり、ひいては、子どもたちに地域に役に立つ大切な一員であるという自覚が芽生え、そのことが将来の地域を担う人材になっていくのではないかと考えます。学校から地域に出ている地域貢献の活動ですが、学校によっては決して強制ではないのですが、年間3回以上は地域で活動しようと呼びかけたり、年度当初に地域で活動することの意義を確認し、心構えについて講義を受けて地域貢献活動に臨みました。ここにあげておりますような活動に取り組んでいます。活動の様子を写真で見させていただきます。これは吹奏楽部が演奏の依頼を受け、スーパーの一角でミニコンサートをしているところです。「最後の演奏会で、たくさんの地域の人たちが楽しんでくださり、恩返しができたと思うのでよかった。本当にいい思い出になった」と述べています。

夏祭りの手伝いボランティアでは、準備を含めて接客を行いました。「接客は初めての体験で、簡単そうに思っていたけど、とても難しいことがわかりました。今回のボランティアに呼んでくれた地域の方がやさしく見守ってくれてよかったです」とやってみて初めてその難しさや地域の方々のやさしさに気づいてくれた子たちがいます。

小学生の学習支援では、「はなまる広場の皆さんと

ともに、夏休み中の毎週月曜日に、小学生に勉強を教えたり、一緒に遊んだりしました。小さい子たちに頼られるのは、照れくさいけどいいもんだなと思いました」と述べています。小さい子たちに頼られ、照れくさく感じながらも、満足感を得ることができたようです。

障害者支援施設の祭りで演奏をしました。「皆さんが手拍子しながら楽しそうに聞いてもらえ、私達も楽しく演奏することができました。これからも地域で演奏することがあるので、もっといろいろな曲を練習して、いろいろな所で聞いているみなさんにいい音楽を届けられるように、日々はげみたいと思います」と、この演奏をとおして、さらに練習に励みたいという気持ちになってくれている生徒もいます。

朽木西小学校の運動会には、地域の人たちと一緒に参加しました。「助かった、また来年も来てねと言われ、感謝してもらえたけど、何よりたくさん笑顔に出会えてよかったです」と、感謝されたこと、子どもたちや地域の方々の笑顔に、やりがいや満足感を感じた生徒がいます。

生杉地区の雪囲い作業に取り組んだ生徒は、「雪囲いは、柱を立ててその柱のコの字型の溝に板をはめて重ねることで、家を雪の重みでの崩壊から防ぐためにしている囲いだということがわかった。とても寒い中で、時間のかかる作業を毎年していて大変だと思った」と、昔ながらの文化に触れ、その重要性を再認識することができたようです。

介護施設にボランティアに行った生徒は、「ボランティアに行ってもよかったです。なぜなら元々知らない人と話すのは苦手だったけど、皆さんと話していると人と話すのが好きになりました。接する前と後では、

お年寄りに対する見方も変わり、話をしていると心も落ち着き、よい経験になりました。また行きたいです」と述べています。

介護施設やスポーツカーニバルで活動した生徒は、「地域の人との交流って、意外と楽しいんだなと思いました。介護施設では、おじいちゃんおばあちゃんからいろんな話を聞かせてもらったり、スポーツカーニバルでは、大人の人とスポーツで交流しとても楽しかったです。また地域で活動したいです」と、述べています。この気持ちが次の活動につながるものと思います。そのほか、いろんな活動で地域に貢献をしています。

地域に出て活動した生徒たちの変化を学校ではこのように捉えています。「地域の方々とつながり、学ぶことで、生徒たちは自分の新たな可能性を見つけ、自信を付けている」「活動の後に、『頑張っていたね』と声をかけられたり、認められ、ほめられたりする経験を積み、自己肯定感が高まっている」「様々な体験をすることで、チャレンジ精神が高まり、積極的に活動に参加しようとする生徒が出てきている」「『自分は役に立った』と感じ、さらに地域の役に立ちたいと感じている」というような変化です。学校からの地域貢献活動の推進により、地域で、励まされ、教わりながらも、真面目に活動してくれている中学生の姿は、地域の方々の喜びや元気につながっているのではないかと思います。そして、地域の方からの信頼を寄せられ、地域の方々と良好な関係ができてきたことは、大きな成果であると考えます。

また地域で活動することは、そこでいろいろなコミュニケーションをとることにつながり、社会性を身に付ける意味で大変有用性を感じます。このような活動

<p>村田学校教育課長</p>	<p>が持続可能な活動になるよう、そして生徒自身が地域に対する愛着を感じ、地域の将来のことを見据え、地域にどのように貢献していくかを考えさせるような工夫もしていく必要があると考えます。</p> <p>学校への関わり人口が増えること、広がること。そして、地域に出て活躍する子どもたちが、頼られ、自己有用感を高め、自己有用感に裏付けられた自尊感情を高められること。そのような積み重ねにより、地域への意識が高まり、地域を担う人材として成長していくものと考えます。今後も、地域と学校の双方向の連携・協働をさらに推進し、地域とともにある学校運営と学校を核とした地域づくりを進めてまいりたいと考えております。事務局からの説明は以上とさせていただきます。</p>
<p>福井市長</p>	<p>はい、ありがとうございました。推進員の皆さんからはそれぞれの中学校区で様々な取組をされておりますし、ずっと聞かせていただきますと、まさに地域のそれぞれの特性といいますか、そういうものもしっかりと踏まえていただきながらそれぞれ特色ある取組を一生懸命していただいているなというふうに受け止めさせていただきましたし、また今学校教育課長の方から報告がありました教育現場で地域学校協働活動そのものについてどのように受け止めているのかといったことも報告を受けたところであります。</p> <p>私の手元には、今日の進行の次第がございまして、この進行のとおり進めてくださいというものなんです。この後委員の皆さんから忌憚のない意見をいただければと思いますが、最後に括弧書きがございまして市長の方で最後に総括をお願いしますと大変難しい宿題をいただいております、先ほどからずっと推進員</p>

福井市長

の皆さんや学校教育課の話をお聞かせいただき、この地域学校協働活動のキーワードは一体何なのかなと思いつつ聞かせてもらっていたのですが、私の感じたところで恐縮ですが、たぶん信頼と交流と、それから最後に継続かなと。この3つが推進員の皆さんあるいは教育関係の皆さんが一生懸命取り組まれているそれをキーワードと言うと、大層ですけども共通して言えることはやはり関係者間の信頼であり、さらに年齢を越えた交流であり、そしてこの活動を継続していくことがこの高島にとって子どもたちの豊かな人間性を育てていくことにつながるのかなと。かっこよく言えばそんなことを今ふっと思っていたところでもあります。それでは、順次委員の発言を求めてください、とこのように口述書に書いてありますので、どなたからでも結構ですので、この地域学校協働活動について、あるいは先ほど発表いただきましたそれぞれの取組等についてお聞きになりたいことがありましたら発言していただければと思います。

田邊教育委員

失礼します。今発表していただいて推進員さんの活動の中での苦勞だったり、工夫であったりしていただいていることがよくわかって本当にありがたいなと思いました。最初は学校教育の現場の方からここにも書かれているように100%達成していただきましたとか学校はすごく助かりましたという声の方が多くって、なかなか地域の方からの声、地域の方はどうなんやろなという声あまり聞こえてこないのかなというふうに思っていたんですけど、今発表していただいた中に、地域の人の中にもこういうふうに子どもたちが溶け込んでいくことで少しずつでも一步一步進んでいるんだなというふうに感じました。この高島市で、

<p>田邊教育委員</p>	<p>先ほど市長がおっしゃった信頼・交流・継続と同じようになってくるんだと思うんですけども、市でこの子どもたちを地域でどのように育てていきたいのかと、みんなで共有することが必要になってくるかと思えます。安曇川の梅村さんの報告の中にも同じようなことが書かれていて、学校と地域と保護者がコミュニティ・スクールについてもっと理解を深め、ともに活動を進められるといいということを書かれていたので私と同じことを思っていたらいいんだなと感じました。またその中でどうやって子どもたちが地域に交わっているのかなということが見えなかったんですけども、地域に交わっていくというよりも、現場では地域の行事を現場に持ってきて、地域の皆さんとともに活動をしているということから、学校と地域の方の広がり、地域づくりの元気っていうのが進んでいくんだなというふうに思いました。最後に私はせっかくここまで推進員さんにさせていただいていますし、他にも地域の方たくさん助けていただいていますので、もっともっこの現状ではなくって次に進んでいくために教育委員も当然なんですけれどもコーディネーターの方、地域の方で、これも同じなんですけども、もっとも意見交換をしてひとつのことを共有していくためにたとえ少しの時間でもみんなで集まって協議をして意見を出し合って工夫をしていくという場を設けていただけたらありがたいなと感じました。以上です。</p>
<p>福井市長</p>	<p>ありがとうございます。では皆さん一通りご意見を。</p>
<p>小多教育委員</p>	<p>では続いてということで、まず推進員の皆さん大変ご苦勞様でございます。各地区それぞれ環境が違う中</p>

で、同じようにスタートはできませんし、個々違いがあって当然かとは思いますが、非常にご苦労いただいていると実感しております。この制度、いわゆる学校運営協議会と推進員さんが正式に決まって丸2年が経過してということで、その中で特に先日長野県の飯田市の研修で、この飯田市では公民館が学校運営協議会の中のメンバー、推進員みたいな形で入って、個人ではなしに公民館の職員さん、市の職員さんですけども、その方が中心になって、社会と地域と学校との結びつきをしているコーディネーター的な役割をされているというような地域もあります。ただ高島市の場合は、それぞれに分かれてということで2年経過したわけですけども、地域の方からの意見を汲み上げるというコーディネーターさんの役割というのがものすごく難しいなというふうに思います。2年前に社会教育委員さんとの意見交換の場の中でも話があったんですけども、地域学校協働活動の推進員＝学校支援も必要であるが、地域とともにという形のつなぎ役であって、子どもの成長を支える地域のパイプ役ではないのかなという意見をいただいております。そういうところからもその場で社会教育委員長さんのお話ではいくらかでも協働・協力はしますよと、そういうような形でいただいています、社会教育委員も協力は惜しまないよというお話もいただいております。そういうところから言うと、前にもお話をしたことがあるんですけども、以前にあった各地域での社会教育推進員さんという存在を今一度組織化というか形付けをしていって、そういうような方がパイプ役で推進員さんが結びつけていくと。各学校あるいは地域との結びつきを、パイプ役を作っていったらどうかなというふうに思いますので、何かもうひとつ位置づけをお願いできたら

<p>小多教育委員</p>	<p>と思います。去年も一昨年と同じ話をお願いをしているんですけども、そうすることによって推進員さんの肩の荷も少しは下り、同時に地域と学校とがまだまだ結びついていく、いわゆる子どもが学校、学校が子ども・地域という形で進んでいくのかなと思いますので、先ほど梅村さんの方からあった小学校が3つ、中学校が1つという中でやはりひとつにしていくのは難しいというのが実情ではないかなというふうに思いますので、ぜひそういうことを検討いただきたいなと思います。以上です。</p>
<p>川原林教育委員</p>	<p>平素は推進員の皆さんには協働活動にご尽力いただきましてありがとうございます。私も子どもが小学校、中学校にいますけれども、3年前の協働活動が始まる前とだいぶ雰囲気が変わってきているなど実際感じます。実際私の連れ合いも小学校のボランティア活動の方に行かせていただきながら、話を聞いていると本当に楽しかったと帰ってくるんです。そこでいろいろな子どもたちの雰囲気や様子を聞いている中で、本当に学校の敷居も低くなっているように感じております。やっぱりこれは推進員さんの日頃の活動の賜物というのもあるんですけども、その中で2年経ったわけですけども、なかなかそこから市長もおっしゃいました継続していくということが今後は難しくなっていくんじゃないのかなと思います。やっぱり小多委員が先ほどおっしゃったように、社会教育推進員のような形で作ったら、共有していろいろな方の人材のつながりを作ったらという話もありますように、いろいろな方の人材の交流が必要になってくるんじゃないかというのが活動している中であります。ただやっぱりまだ2年ということもありますので、これからどんな形に変わっ</p>

<p>川原林教育委員</p>	<p>ていくのかを皆さんで見守っていかないといけないところかなと思います。</p> <p>私も広島の方の方に研修に行かしていただきましたが、府中の方は1中学校区に小学校がいくつあっていろんな地域があってなかなか情報とか取りにくいところをある地域の方はお祭りを中心としたコミュニティができていますので、その長に言うことで全ての情報が広まっているいろんな活動をやってもらったという所もあります。高島には高島のコミュニティがいっぱいあり、朽木には朽木のコミュニティがありますし、新旭には新旭のコミュニティがありますので、そういった今あるコミュニティをそこで交流し、境なく人材も情報も共有できるような形で継続ができればというのがこれから考えていかなければならないことかなと思いました。以上です。</p>
<p>三矢教育委員</p>	<p>失礼します。なかなか最後というのは発言しにくくて何を言おうかなと思っていたんですけど、6地域のエネルギーな推進員さんのご報告、それから学校での様子等ご報告いただきまして、報告にあったように子どもたちのために、学校のために、地域のためにということで、こんなにもたくさんさんの支援が得られて多様な人・機関・団体と連携をして、子どもも大人もですが、地域のヒト・モノ・コトを学ぶ、そして地域を活かす学習ができる、そして地域に貢献するこのあたりは充実した活動ができていて素晴らしいなと思って聞かせていただきました。やはり成果とかいろんなことについては今ご報告のあったとおりなので、敢えて繰り返しはしませんが、学校と地域を推進員さんが工夫しながら情報を共有してきめ細かく心を配り、こんな言葉でいいのだろうかと思うのですが、つなぐと</p>

か紡いでくださったなと思っております。本当にありがとうございます。

もちろん今日の課題の「今後の方向性について」と書いてあるんですが、とりあえずネクストステージに向かう前に、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の仕組みを使って有効に活動できているかどうかというところがしっかりとチェック・評価をしていかないと次へはなかなか進めないかなというふうに思っております。私もそのへんのところが混沌としていたんですが、ついこの前に県の地域学校協働活動のフォーラムがあって、そこで最後の方にさらりと先生がおっしゃった中に、いろんな機能が働いているかどうかのP D C Aのサイクルで検証していったらいいんですよとお話をされて。学校と地域が協働でとかそれから地域総がかりでとかいろいろ耳触りのいい言葉が飛び交っていて、私の頭にもそういう言葉はいっぱい入っていて、地域の中にある学校でとか学校の中に地域があるとかそういう言葉をたくさん聞いているのですが、では具体的にそれはどういうことなのだろうかって思った時に、このP、プランが学校運営協議会、そしてD、地域学校協働活動が実行、そしてそれをチェック、改善してP D C Aのサイクルに乗せていく、ああなるほど私はこの時初めてわかりました。協働でと言っているのにどうしても地域は地域、学校は学校でと図が書いてあるのが頭の中から離れなくて、それがどうやって一緒にするんだろうというところがネックやったんですけれども、確かにこの機能的にP D C Aに当てはめていくと、もうちょっとすっきりとそれぞれの評価ができてくるのではないかと思いました。プランなんですが、課題の中にも書いてくださったり言ったりもしてくださっているのですが、みんなてひ

とつものものに向かっていくということは本当に大切なことだと思います。学校だよりの中にも確かに運営協議をしてこんなふうな話題で話をしてこういうふう目標を設定していきましたという報告もたくさんいただいているのですが、運営協議をもう少し大きくPTAで1回や2回ではなくて、PTAでやって学校でやって先生方でやって子どもたちもやっていろんなところの団体で運営協議をして目標設定とかをシャッフルしながら、そしてそれぞれの思いがずれるのは当然なのですが、そこらへんをどうやってみんなて寄っていくのかを協議して行って目標を決めていく。その目標に向かってみんなが実行していくというサイクルができればいいかなというのがひとつ。それと社会に開かれた教育課程の実現に向けてという大きな課題もございます。今まで今日ご発表いただいた内容、それから学校に協力してくださったいろんな活動を社会に開かれた教育課程の中に新しい意味付けをしていく。そして教育課程の中に落とし込んでいくといった作業をプランのところで、みんなてやっていけるといいかなと思います。やってあげる・してあげるというところに付加をつけていくということです。そこで「できましたね、じゃ学校さん、後はお願いしますね」「地域さん、お願いしますね」終わった後は引き継いでしまうのではなくて、いろんな活動を誰がどう受け持って動かしていくのか。地域・学校・家庭・PTAなのか、しっかり役割分担までの話をしていただく。そしてドゥの方へ持っていく。そこらへんの役割をしっかりと明確にして行って、では地域は何をしないといけなのか、そのことについての情報発信はどこがしていくのか。今だと話を聞いている限り、学校さんは学校だよりとかつながらとかいろんな広報をしてくださって

<p>三矢教育委員</p>	<p>います。それから推進員さんは推進員さんで、時間がないとおっしゃっていたその中で活動も情報発信してくださっています。それをまだどこか情報発信していく所はないだろうかという役割分担をみんなで、コミュニティ・スクールの中でやっていけるような仕組みを、その中で、子どもも学び、大人も学び、地域も元気、学校も元気というそんな仕組みがさらにできないだろうかというところらへんで、最初に掲げていた、広報に書いてあったのですが、昨年度ですかね、高島の教育がコミュニティ・スクールと地域学校協働本部の仕組みを使って、10年後20年後の地域の担い手を育てようということで頑張るんですよ、それから地域社会の活性化を同時に図っていくんですよ、これをつながり響き合う教育と言うんですよって広報していただいております。もう一度そこらへん原点を顧みながらみんなでその可能性にかけて頑張っていきたいなと今日のご発表を聞いて思いました。ありがとうございました。</p>
<p>福井市長</p>	<p>ありがとうございます。教育長は後程。スタンバイしておいてください。何を振るかわかりませんので。いろいろ貴重なご意見をいただきました。推進員さんの報告の中にも複数の方が今こうして参加あるいは支援していただいているそのネットワークをいかにして広げていくのかという必要性のご意見がありましたし、今教育委員さんからも例えば市民でもっと共有すべきであるとか、あるいはまさに学校づくりはまちづくりということを考えれば、地域学校協働活動というのは地域づくりのひとつのテーマであるとの意見もありました。あるいは社会教育推進員さんももう少し参画をしてもらってはどうかと多様な意見がござい</p>

福井市長

ました。

少し話は変わるかもしれませんが、今日は市民生活部長も出席をさせていただいているんですけども、高島市全体の人口は、合併して今年で16年目を迎えるわけですが、だいたいピークが56,000人くらいでした。今だいたい48,000人余りであります。差し引きいたしますと、だいたい7,000人前後が減少ということで推移をしてございます。様々な行政課題が出てくるわけですけども、身近なところでは自治会の自主的な運営がなかなか、例えば役員さんのなり手がなかなか見つからないとか、あるいは一人暮らしの高齢者が増えてきたので見守り等に地元として自治会としてなかなか対応できないでありますとか。本当にいろんな課題が出てきておりますし、あるいは自主防災。万が一災害が発生した場合での地域での自主防災活動がなかなか思うように守っていく体制が整わない。本当に多様な課題が出てきております。そういう中で高島の自治会・区は全部で204あります。そのうち65歳以上の人が2分の1を占める、いわゆる限界集落と言いますが、これが40か所ございます。55歳以上の人が2分の1以上を占める準限界集落、これが94か所ございますので、合わせますと134か所。204分の134か所ですので6割ほどがこのままいくとこの10年ほどで限界集落となってしまう。そうなりますと、先ほど申し上げましたように自治会活動がいろんな地域の相互扶助と言いますか、地域独自のまちづくりがなかなか思うようにいかないということで、そういったことが目の前に迫ってきておりますので行政として手をこまねいているわけにはいかないということで、3年ほど前からいろんな取組をしてまいりました。各限界集落、人口規模の少ない区

福井市長

に職員が出かけて行きまして座談会あるいは隣の集落と広域的な集落で集落再編ということを提案しますと、いやいや隣の集落はああいう習慣・文化があってなかなか私の集落とは異なるのよねと、なかなかそれが思うようにいかずにここまで来ていたわけですが、しかし皆さんそれぞれ近い将来だと十二分にご理解いただいているわけでありまして、つきましては、令和2年度からもうこれ以上行政として放置はできないということで、まず204の区長自治会長さんを中学校区単位・旧町村単位で区長連絡会を設置させていただこうと。さらに令和3年度から区長連絡会を組織拡大させていただいて、例えば旧町村単位でいろんな団体がございます、こども会であるとか民生委員さんであるとか老人クラブさんであるとかいろんな団体が各旧町村単位でありますので、代表者で6か所の住民自治協議会というのを令和3年度に立ち上げて、それぞれ市民の皆さんの暮らしを支える住民自治の方向性をそこで検討議論していただくということを組織化します。これ以上手をこまねいているわけにはいかないので、令和2年令和3年度にそういうことを市としてチャレンジをしてみようと今その準備をしているところであります。

何が言いたいのかと言いますと、その中に例えば地域学校の協働の組織も一員として入っていただくと当然その区長さんも入られていますし、それは旧町村単位の区長会の代表者、あるいは民生委員さんなり老人クラブなり各団体がそこに入ってくださいますので、推進員さんの仕事を増やすようなことになるのかもしれませんが情報を共有していただく、地域学校協働活動の実際をその地域の関係各位にご理解いただいて、そして協力していただける部分は積極的に協力してい

福井市長	<p>ただくというふうな体制をここに含めていったらどうかかなと思ひながらさっきから考えていたんですが、さあそこで市民生活部長、何か言うてください。</p>
西川市民生活部長	<p>失礼します。市民生活部長の西川でございます。市長がそこまで言うていただきましたので私から言わせていただくということは特にはないんですけども、本当に自治会が困っておられるというところから端を発しての検討なんです。目的とするところがうまくかみ合っていくといいなとさっきから聞いておりましたので、今ほど市長から説明があったとおりでございましたけれども、今年度からこういった地域の中で中学校区単位で情報とか人材とか課題も含めて共有して地域で課題に向けて何かを行動していくとそういう仕組・組織を作っていきますので、すでに中学校区でこういった活動されておられます推進員さん等をはじめ、いろんなお力をお貸しいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p>
福井市長	<p>では最後に教育長どうぞ。</p>
上原教育長	<p>では全体の話をしていただいて最後の宿題に答へたいと思ひます。まず先ほどから写真に出ておりますが、学校に地域の方がおられることが何の違和感もなく普通になっているのはあの写真からもわかりますように大きな変革であるなというふうに思ひます。以前ですと学校に誰かが入られると、名札を付けてというような形でしたけども、一緒に普通に子どもたちも見ているというのは今回の活動の象徴的な部分ではないかなと思ひます。ここまでしていただきましたのは、やはり推進員の皆さんのお力添えということで大変感</p>

謝しているところでありますし、また市民の皆さんのご協力も大変感謝しているところであります。

さて今日のこの活動の「今後の方向性について」なんです、いよいよ地域の方々も含めて、なんでこの活動をしているんやろうという目的あるいは目標を共有できているかということが非常に重要になるのではないかなと思います。昨年総合教育会議のスライドはありますか。高島市が取り組んでいる「学校運営協議会と地域学校協働活動は両輪で」ということなんです、今報告いただいたのは左側の部分である地域学校協働本部なんです、実は右側の部分は特に今回話が出てこなかった部分です。ただ意見はございました。つまり右側の学校運営協議会というのは、今市内の19小中学校にはございます。朽木は1か所になっていきますけれども。ここは何をするところかと言うと、スライドには組織例というのがありまして、学校運営協議会の委員さんがおられます。そして学校と協議をする場になっております。これは合議体ですから、ここで決定事項が起こります。何を決定するかと言うと、今学校教育ではこういうふうな教育をしてこういうふうな資質を高めますよ、じゃあこの地域、この学校ではどうしましょう、校長はこういう教育を進めたいと思います、いやいや地域のこんな思いがあるから、こんなことを取り入れてはどうでしょうという話し合いがなされて決定したことは続いて実施するという形になります。会社で言ういわゆる理事会のようなものです。ここで決定したことはその後引き継がれて続いていきます。じゃあこういう教育をこの学校でするには地域の方々にどういうところを協力してもらったらいいたろうか、あるいはこういう教育課程の中で地域貢献活動はどんなことができるだろうかという

ことを十分ここで議論をしていただいて、そして地域学校協働活動につないでいくということがここでは両輪でと書いてありますけれども、いよいよ私は一体化していきたいなど。左側がものすごく進みまして、右側がちょっとかすれてしまっていますので、いよいよ高島市はこれを一体化して進めていく必要があるのではないかなということが次年度以降の方向性だと思いい、また議論をして進めたいなと思っています。これは今後の目的であり高島市にはこの組織が絶対必要であると思っています。それはなぜかと言うと、人づくりのため、もうひとつは地域づくりのために絶対必要だと思っています。

さてここで私も今日、その話題が出るであろうと思って資料は持っているのですが、住民自治協議会についてですが、この取組は学校を核にした地域づくりが本来の目的でもあります。したがって、学校運営協議会で議論するわけですから、右側の部分がより積極的に議論する部分であるだろうと思いますので、この学校運営協議会の中に住民自治協議会の役員さんが入っていただいたり、あるいは逆に学校運営協議会の方々がそこに関わったり、高島市のこれからのまちづくりにつながっていけるのではないかなというふうに思っています。高島市では、先ほど駒井推進員さんがおっしゃったように、人口が減少している中で、今地域の方々によって子どもたちはものすごく愛情を注いでいただいで育っています。この子どもたちが将来自分が高島市で生きていくには、大きな課題を解決していかなければならないと思いますので、当然住民自治協議会の関わりを持ってくれるものだろうというふうに思っていますので、そのための仕組として来年度以降この学校運営協議会と地域学校協働本部を一体的に取り組ん

上原教育長	<p>で、そして住民自治協議会というふうにつないで、学校にも地域にも家庭にも、そして将来の地域づくりにも役立つようなそういう一体的な組織につながっていかないかなと考えているところであります。以上です。</p>
福井市長	<p>学校運営協議会、地域学校協働本部は聞いていてもわかったような、わからないような。重複している部分が多分にあります。これは学校運営協議会の設置というのは地方教育行政の組織及び運営に関する法律かな、あれは何年前やったかな。</p>
上原教育長	<p>平成16年の改正のタイミングです。</p>
福井市長	<p>ずいぶん以前に学校運営協議会というのが設置をされて、果たしてこれが地域学校協働本部と屋上屋を重ねてはしまわないかなと個人的にちょっと懸念をしておりまして、今これを地域学校協働本部と、例えば学校運営協議会とを一体的にまとめるということですが、ただ法律的に位置づけられている部分というのがありますので、まとめられるかどうかは事務局の方で十分調整をさせていただきたいと思っておりますし、先ほど少し披瀝をさせていただいた地域の自治の在り方を真剣に考えていかないと、限界集落が3分の2以上になってしまいかねないという地域事情もありますので、今から手を打っておかないと自治が継続できないと大変ですので、それを令和2年度と3年度の2か年かけて区長会議をまず設置して、そしてその次に住民自治協議会を立ち上げようと。こういうシナリオを考えているわけですが、これを無理やり地域学校協働活動と一緒にすると</p>

<p>福井市長</p>	<p>いうものでもありませんけども、その地域の自治協議会の中に代表として学校運営協議会なり、あるいは地域学校協働本部の方々にもその自治の協議会に参加してもらって取組を伝えていただいて、そして地域学校協働活動の実態をもっと広く市民の皆さんに共有していただく場面に使っていただければどうかなと思いますし、そこはちょっと教育委員会と市民生活部の方で制度的な仕組なり、法律的な根拠がありますのでそのところは整理をしていただいてできるだけ市民の皆さんにもわかりやすいような体制を整えていただければなと思うところでもあります。答えを出してしまったようであまりにも最後に総括をお願いしますと書かれていたもので何か結論を出さないとあかんのかなと司会進行させていただいたんですけれども、今日は本当に推進員さんの日々のご苦勞なりあるいは頑張っているその内容を報告いただき、そして保護者の皆さんもここ最近の子どもたちの様子、学校の様子は変わってきたというふうに高い評価もいただいて、私も感謝の限りでありますけれども、こういう課題を共有させていただいてひとつの方向としては先ほどの方向で少しお時間いただいて、教育委員会と市民生活部の方で検討させていただいて、調整が決まればまたお知らせをさせていただくということにしていきたいと思います。その他何かこの機会にございましたら。推進員の皆さんももしこの機会にあれだけは言っておきたいということがありましたらご遠慮なさらずに言っていただいたらと思いますけども。はい、どうぞ。</p>
<p>谷口推進員</p>	<p>住民自治組織の在り方検討会に駒井推進員と2人で出席をさせていただいていますけれども、先ほどから</p>

<p>谷口推進員</p>	<p>話は出ておりますけども、やっぱり各地域、住民自治協議会が広く構成する地域、そして学校運営協議会の学校のエリアにしても結局はどういう地域、あるいはどういう学校を目指していきたいかというところあたりですよね、それをコーディネートしていただける方がどううまくまとめていただけるかというのと、各主体が今回の学校運営協議会でもそうですけども、やっぱり主体性を持ってそれに関わっていただける、もちろんそれに行政も関わっていただいて信頼関係を作っていくかどううまく進んでいかないかなと思いますので、そのへんも含めて考えていただけるといいかなと思います。以上です。</p>
<p>福井市長</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございました。それでは時間も参っておりますのでこのあたりで閉めさせていただきます。本当に本日は長時間にわたりまして、熱心にご協議をいただき、そしてまた何よりも推進員さんの各活動内容を聞かせていただきまして、感謝を申し上げる次第でございます。これをもちまして本年度第2回となりました総合教育会議を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。</p>
<p>大塚教育総務課長</p>	<p>本日は長時間にわたりましてご協議ありがとうございました。教育委員の皆様から頂戴いたしましたご意見、また推進員の皆様からは貴重なご報告をいただきました。また、市長、市民生活部長の方からは今後の自治組織の在り方につきまして情報提供をいただきました。こういったことを踏まえながらまずはしっかりと事務局におきまして整理をして進めていきたいと考えておりますので、また関係の皆さんのご支援ご協力</p>

大塚教育総務課長

の程よろしくお願いを申し上げます。それではこれをもちまして第2回総合教育会議の方を閉会とさせていただきます。皆さんありがとうございました。お疲れ様でした。

(閉会 午後3時8分)